

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名

共に考えるために伝えよう～みんなで生きる町～

2 指導観

○ 本学級の児童の実態

本学級の児童は、これまでに「工夫して発信しよう」（5年下）や「ガイドブックを作ろう」（6年上）などの学習で、読み手を意識してある程度のまとまった文章を書くことを経験してきている。また、毎日の家庭学習の中で、一日の学校生活をふり返り、成果と課題をまとめる生活作文として、簡単な日記を書くことを習慣化してきている。

しかし、相手意識や目的意識をもって、調べたことや考えたことを強く訴えて提案していくような文章を書いた経験や、論理的に自らの考えを明確にしてある程度のまとまった文章を書いた経験は、ほとんどできていない。そのため、事実と感想、意見を区別して書いたり、文末表現などを工夫して書いたりすることをあまり意識できていないと言えない。

書くことについての意識の実態調査からは、以下のような結果が得られた。

1 国語の学習の中で、好きなものに○をつけてください。（複数回答可）

話す・聞く…10人 書く…16人 読む…23人

2 あなたは文章を書くことが好きですか。いずれか一つに○をつけてください。

好き…6人 どちらかといえば好き…18人 どちらかといえば嫌い…5人 嫌い…1人

※「好き」「どちらかといえば好き」と答えた人はその理由を教えてください。（複数回答可）

- ①書くと自分の考えがまとまるから …11人
- ②書くと自分の考えを相手に伝えることができるから …13人
- ③書くと記録としてとっておくことができるから …20人
- ④その他 …0人

※「嫌い」「どちらかといえば嫌い」と答えた人はその理由を教えてください。（複数回答可）

- ①何のために書くのか分からないから …1人
- ②何を書いたらいいか分からないから …4人
- ③どのように書いたらいいか分からないから …6人
- ④その他 …0人

3 あなたは文章を書くときに、どんなことに気をつけていますか。（複数回答可）

- ①何のために書くのかを意識して書くこと …13人
- ②書きたい事柄の中から、必要なことだけを選んで書くこと …14人
- ③文章の組み立てをよく考えて書くこと …10人
- ④見たこと、あったことと自分の感想・意見を分けて書くこと …11人
- ⑤詳しく書くところ、簡単に書くところをよく考えて書くこと …9人
- ⑥書いている途中や書いた後に読み直して、

よりよい言葉や文章表現に変えること …21人

- ⑦その他 …5人

- ・段落に気をつけている。
- ・一つの文をなるべく短くまとめるように気をつけている。
- ・習った漢字を使うように気をつけている。
- ・文字をていねいに書くように気をつけている（2人）

○本教材の価値

本単元「共に考えるために伝えよう～みんなで生きる町～」は、教材の資料をきっかけにして、身の回りの社会や出来事から問題意識をもって「みんなと一緒に考えたい、みんなの考えを聞きたい」と思う課題を自ら設定し、調べたり考えたりしたことを提案していく活動を通して、自らの手で暮らしをよりよいものにしていくとするものである。

運動会、修学旅行、学習発表会と大きな行事を終え、小学校生活最後の一年があと半分もないことを実感し始めるこの時期に、卒業までの残り少ない日々を有意義に過ごすために考えたことを互いに提案しあう活動を行うことは、子どもたちに必要感を感じさせ、目的意識をはっきりと持たせることになるであろうと考える。自分を取り巻く社会に目を向け、問題と思うことについて、ともに卒業を迎え、ともに歩いていく仲間「改善提案」を宣言したり、提案したりする活動は、自らの生き方を考えていくうえでも意義深いと考える。

自分の考えを誰かに向かって述べていく文章を書いた経験が少ない児童にとっては、相手意識や目的意識をもって提案文を書くことにより、自らの考えをつくりあげ、論理的な文章の書き方を身につける絶好の機会になると考える。最終的には自分の考えを表現することに自信をもつことができるようになってほしいと考える。

自分の考えを明確にする指導と自分の考えがよく伝わるように書き表す指導を組み合わせることで、論旨のはっきりした文章を書くことができるようにしたい。

○自らの考えを明確にして書き表す力を育てるための指導のあり方

〈目的意識・相手意識、自分の考えをつかむ段階〉

まず、2学期もあとひと月あまりとなったこの時期に「卒業に向けて何かお互いのためになる学習をしよう」と投げかけ、自分ならではのテーマを見つけて考えをつくり、提案し合っていく学習を通して、残り少ない日々を有意義に過ごしていけるようになりたいという思いを高める。そして、単元名や教材名、冒頭部分や資料となる教材文を読ませ「身の回りの問題の中から、みんなと一緒に考えたい、みんなの考えを聞きたいと思うことはないか。」と投げかける。そして、自分を取り巻く社会（ひと・もの・こと）の中から「自分の問題として」改善すべきことがないか考えさせる。さらに、その考えをともに伝え合っていくために、自分の考えを明確にした「改善提案文」を書き上げようという学習の構えをもたせる。

〈取材段階〉

次に、自分を取り巻く社会の中から問題と感ずることをイメージマップをつくらせてリストアップさせ、自分が提案する題材を決めさせる。このときに、提案が「自分ならではのもの」になるように題材を決めていくよう助言する。

〈構成段階〉

その後、自分の考えを述べていく文章を書いた経験が少ない児童の実態を考慮して、どのようにして自分の考えを述べていく文章を書いていけばよいのかイメージしやすいようにモデル文を提示し、意見文を構成する要素について考えさせる。その中で、自分の考えを述べるためには、経験したこと、聞いたこと、調べたことなどの事例を入れて理由を述べる必要があることや、あえて反論を取り上げてそれを取り込んだ結論をまとめると提案に対する説得力が強くなることに気づかせたい。

自分が書く意見文のイメージを持たせた後には、自分の題材について改善提案を述べる際の「提案・理由となる事例・反論・結論」という構成をモデル文をもとに表やカードを使って整理させていく。どんな事例を入れるべきかを考える際には、知識や体験など説得したいことが相手に分かる事例かどうかを十分に検討させたい。この段階でも最初のモデル文を生かして、自分の提案に対してみんなの共感を呼び、そんなふうと考えていなかった友達にも「自分もぜひしよう」と思わせるようなものにするためには、自分の生活経験や知識などの事例が大事になるこ

とに気づかせていきたい。次に、提案が独りよがりなものにならないように、自分の提案に対して一度反対の立場に立たせ、反論を想定させる。さらに、児童の実態として、自分でつくった提案に対する一番の反論を考えることは容易ではないと考えられるため、表にまとめた考えを見せ合わせ、友達から反論をもらえるようにする。友達の意見に反論をつくる際には、ここでもモデル文をもとにどんな反論をつくれればいいのかを考えさせる。「その意見は、この観点から見ると弱い」といった意見や対立する意見などを考えさせ、友達の提案を大きく揺さぶることができるような反論をおくらせる。そのうえで友達からももらった反論と自分で想定していた反論を比較、吟味させて、それらの反論を取り込んだ強いまとめを考えさせていく。これらの過程で自分の考えを明確にさせたい。

〈記述段階〉

最後に、書き表す段階では、論理的な意見の述べ方になるように自分の考えをある程度まとめた意見文として書きまとめさせる。モデル文をもとに、事実と意見を書き分けたり、訴えかけるような表現にしたりするために文末表現を工夫させたり、効果的な書き出しなどの組み立ての工夫を考えさせたりしていく。

〈推敲・評価段階〉

効果的な組み立てや表現のよさ、簡単・詳細の軽重のつけかた、訴えかける文末表現といった観点で推敲させ、結論が明確で根拠がしっかりしている作品を仕上げさせたい。

最終的には、書いた作文を印刷して読み合わせたり、校内 LAN の掲示板に掲載させたり、学級通信で数編ずつ紹介したりして、友達だけでなく全校の児童や先生方、保護者の方々にも自分の考えを公開して感想をもらえる場を設定し、お互いの提案を実行していこうという意欲を高めるとともに、みんなの気持ちや行動を動かすものが書けた、自分の考えで誰かのためになれたという満足感や充実感を味わわせたい。

これらの学習活動を成立させるためには、日頃のスキル練習の中で文章を書くことに対して「書き慣れ」をしておくことも重要である。本学級では毎日の家庭学習「自学ノート」にその日一日の学校生活をふり返って書く日記に取り組みさせている。また、毎朝10分間の基本タイムを使って週2回視写をさせている。「自分の考えをもつ」ということに関しても、本単元のみを負うものではなく、他教科の学習も含め、日常的に訓練しておく必要がある。

書いて考え、書いて考えという学習をくり返していく中で文章を完成させていく喜びを感じることができる学習にしたい。

3 単元目標

- 自分を取り巻く社会（ひと・もの・こと）について改善すべき所を見つけ、目的意識・相手意識をもって自分の考えを文章にまとめ、改善提案をしようとする。
- 自分の立場を明らかにして、事実と意見を書き分けたり、効果的な構成を考えたりして、自分の考えを意見文にまとめることができる。
- 観点にしたがって、自分の文章を見直すことができる。

4 学習計画（全9時間）

次	配時	学習活動と内容	教師の支援※考えを明確にして書き表すための支援
一	1	1 お互いの考えを提案し合って、卒業までの残り少ない日々を有意義に過ごしていけるように、お互いのためになることをしようという思いをもつ。 2 単元名、教材名、冒頭から「みんなで生きる町」の意味について考える。	○ 「卒業に向けて何かお互いのためになる学習をしよう」と投げかけ、自分ならではのテーマを見つけて考えをつくり、提案し合っていく学習をしていくことを告げる。 ○ 冒頭部分の「施設や物」にとらわれず、広く自分が問題と感じている「人

		3 教材文を読み，学習の見通しをもつ。	<p>・もの・こと」について改善できることを考える学習であることを確認する。</p> <p>○ 教科書の単元構成に目を通して，学習の流れをつかませる。</p> <p>○ 互いに説得力のある提案をしあえるようになるために，書いて自分の考えをまとめる学習が有効であることを考えさせ，学習の構えを持たせる。</p>
<p>単元のため</p> <p>自分を取りまく社会（人・もの・こと）を見つめ，問題と思うところを改善するにはどうしたらいいかを考えよう。考えたことを文章にまとめて，改善提案文をつくろう。</p>			
二	1	3 自分を取り巻く社会の中から問題と感じる題材について話し合い，自分が提案する題材を決める。	<p>○ イメージマップをつくらせ，自分を取り巻く社会を見つめさせる。</p> <p>○ 新聞レベルから，身の回りの地域のこと，あるいは学校生活など，様々な角度から題材をみつけさせる。</p> <p>※ 自分の個性が生かして，自分ならではの提案になるような題材を決めている子を賞賛する。</p>
三	1	<p>1 「改善提案」の文章をどのように書けばよいかイメージをもつ。</p> <p>(1) モデル文から，自分の考えを提案する意見文に必要な要素について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案理由の中に，自分の体験や調べたこと，見聞きしたことなどの事例が必要なこと。 ・反論をも取り込んだまとめをつくと説得力がますこと。 <p>(2) 自分が選んだ題材について，「改善提案」に必要な要素を表に書いて，自分の考えをつくる。</p>	<p>※ 教師の用意したモデル文から，どんな事例を入れるとよいか考えさせる。</p> <p>※ 教師の用意したモデル文から，反論を取り込んだまとめの部分に目を向けさせ，説得力がある提案にするために反論を取り込んだまとめをつくることよさを考えさせる。</p> <p>※ 自分の提案の骨子を表を使って整理させる。</p>
	1	<p>2 改善提案をより説得力のあるものにするために自分の考えを明確にする。</p> <p>(1) モデル文から，提案とそれを裏付ける理由となる事例について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自分で考える ②友達にアイデアをもらう。 <ul style="list-style-type: none"> i グループで 	<p>※ 前時のモデル文を生かして，事例の部分を変えて提示し，自分の生活経験や知識などの事例が大事になることに気づかせる。場合によっては課外に取材させたり，図書室やパソコンで調べさせたりする。目的に応じて必要な情報を適切に選択できるよう助言する。</p>

		<p>ii クラスのみんなから</p> <p>③さらに調べる必要があることを考える。</p>	<p>※ 色つき付箋紙を用意し、事例を書き込ませていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えた事例…黄色 ・友達が教えてくれた事例…ピンク色 ・後から調べて付け加えた事例…水色 <p>それらの中から児童が選んだ事例は、文章全体を見通して目的や意図、必要性や効果という観点で適切かを助言する。</p>
	1	<p>(2) モデル文から反論のつくり方を考え、自らの考えに反論を想定し、それを取り込んだ結論を考える。</p> <p>(3) 友達の改善提案について知り、その友達が一番困る反論を考える。</p>	<p>※ 前時のモデル文を生かして、反論の部分を変えて提示し、さまざまな角度から反論を想定して考えると提案が補強されることに気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ この段階では、結論のまとめ方には深入りしないようにする。 ○ 相手が困るように、もとの提案を足下から覆すような反論をつくった方が、結果としては相手を助けることになることを助言する。
	1 （ 本時 ）	<p>(4) 友達からもらった反論を吟味し、反論を取り込んだ結論のまとめ方を考える。</p>	<p>※ モデル文を生かして、友達からもらった反論を取り込んで、もっと幅広く納得してもらえる提案にするための結論のまとめ方を考えさせる。</p>
四	1	<p>1 改善提案文を書きまとめる。 文末表現、簡単・詳細の軽重、書き出し組み立ての工夫など</p>	<p>※ これまでの学習プリントとモデルをもとに、書き出しや組み立て、文末表現などに気をつけて記述させる。</p>
五	1	<p>1 書いた文章を推敲する 文末表現、簡単・詳細の軽重、書き出し組み立ての工夫など</p>	<p>※ 声に出して読み返させ、記述したときの観点に沿って、チェックプリントをもとに見直していけるようにする。</p>
	1	<p>1 書き上げた改善提案を公表し、感想をもらい、みんなで互いの提案を生かし合って残りの日々を有意義に過ごしていこうという思いを強くする。</p>	<p>○ 提案によって気持ちが動かされたかを相互評価させ、自分の提案がみんなの心や行動を動かしたことへの満足感を味わわせるために、印刷して読み合うことができるようにするとともに校内 LAN の掲示板に掲示させ全校に発信するとともに、学級通信で保護者の方々へも発信していく。</p>

5 本時（6／9）

平成17年11月24日（木）

6 本時の目標

- 友達からもらった反論をもとに自分の提案を見直し、反論を取り込んだ結論を書きまとめることができる。
- それぞれの反論をくつがえしてまとめるときの「くつがえし方」について、よりよい「くつがえし方」がないか、友達と話し合うことができる。
- 説得力のある提案にするためにはどの反論を取り入れるべきかを考え、自分の考えを明確にすることができる。

7 本時指導の考え方

前時までに子どもたちは、自分の改善提案について、自分らしさが出せる題材を選んでいる。そして、集めた事例の中から適切であると検討した事例を2～3例選んでいる。さらに、自分なりに反論を二つ、三つ想定してきている。また、友達の提案に対しての反論もつくってきている。

本時は、友達からの反論をもらい、もらったものと自分が想定していたものとを比較、吟味したうえで、それを取り込んだ結論をまとめることで、より説得力のある提案ができるように自分の考えを明確にする場面である。

まず、提案を揺るがすような反論をくつがえして結論したモデルを数例提示し、めあてをつかませる。モデルを通して、反論から結論につながる時のまとめ方として「①一度受け容れること」「②それをくつがえすこと」「③最後にもう一度よびかけること」を教える。

次に、前時に書かせておいた友達からの反論をもらい、それに対する結論を考えて書きまとめさせる。自分の想定したものと同一反論が来るか、想定外の反論が来るかをわくわくしながら読むことであろう。そこでは、本気になって考えさせる反論がくることが大事であるため、前時に友達への反論を書かせる段階で、相手を困らせ「ギャフン」と言わせることができるようなものをつくるように助言しておく。それは相手を攻撃するためではなく、相手の論を補強し、結果的に相手を助けることになることに気づかせておく。

子どもの実態として、提案を揺るがすような反論が来た場合、②の「くつがえし方」で迷って自信を持っていない子が多いと予想されるため、しばらく自分で考えさせた後で、グループ交流の時間をつくる。そこで、グループの友達と「さらによくくつがえし方がないか」話し合わせ、アドバイスをもらうことができるようにする。

最後に、どの反論が自分の提案に一番影響を与えるものかを考えさせる。自分なりに想定した反論をもとに「想定通りだったか」「まったく想定していなかったものか」を考えて友達からの反論を吟味し、より説得力を増す提案を書くためには、最終的にどの反論を取り入れればよいかを選ばせる。

本時学習のまとめの段階では、「今日の学習で」を書かせ、「提案、理由となる事例、反論、結論」のすべての項目について考えてくることができたことに気づき、いよいよ次からは実際に書く段階へ入っていくことにふれている子を取り上げて発表させ、次時への意欲を高めたい。

子どもたちが、単元導入当初から徐々に考えを明確にしていくことができるようにするためには、学習の流れが子どもたちに理解できていることが求められるため、前時までの学習の足跡を掲示物として残しておく、教室に掲示しておく。

本時の学習で、子どもたちにいい意味で批判的に多面的に物事を考える力をつけたいと考える。

8 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援※考えを明確にして書き表すための支援
<p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>—めあて— 友達からもらった反論に対して結論を考えよう。 また、どの反論を自分の改善提案に取り入れれば、より説得力のある提案になるかを考えよう。</p> </div> <p>2 モデル文から、一番困る反論をも取り入れて結論した提案には強い説得力がうまれることを考え、反論から結論につながるときのまとめ方について考える。</p> <p>3 友達からもらった反論を吟味し、反論を取り込んだ結論をつくる。 (1) 自分で考える。 (2) 友達の考えを聞いて話し合う。</p> <p>4 どの反論を最終的に取り入れるか選ぶ。</p> <p>4 本時学習のまとめをし、次時への意欲をもつ。</p>	<p>○ 前時までの学習の流れを掲示しておいた物や自分の学習プリントを使って想起させ、本時のめあてをつかませる。</p> <p>※ 第三次でイメージをもたせるために使ったモデル文を提示したり、前時に自分でつくった反論に対するまとめ方のよい例を紹介したりして、反論から結論につながるときの書き方をまとめる。 ①一度受け容れること②それをくつがえすこと③最後にもう一度よびかけることの三つの視点でまとめさせる。</p> <p>※ 子どもの実態として、提案を揺るがすような反論が来た場合、②の「くつがえし方」で迷って自信を持ってない子が多いと予想されるため、しばらく自分で考えさせた後で、グループ交流の時間をつくる。</p> <p>※ 自分の提案を一番揺るがしたものを取り入れた方が、説得力が増すことに気づかせる。</p> <p>○ 今日の学習を終えての感想を書かせ、数名発表させる。</p> <p>○次時からは記述段階に入っていくことを告げて、意欲を高めさせたい。</p>